

光栄の森

平成24年5月 毎月1日発行 第47号
発行者 光栄プロテック 重延

新しい出会いの中で

代表取締役 三田雅憲

4月に入り、電車やオフィスには新入社員の初々しい姿が其処此処にみられ、新しい風を感じ今期への思いに胸をふくらませています。今年、当社には新入社員はありませんが、進藤君や重延さんが相変わらず元気に頑張ってくれている姿をうれしく感じております。

3月は「トミー・ヒルフィガー」の看板、4月は「ルイ・ヴィトン」のショーケースなどスーパーブランドの仕事を続けてやらせていただきました。その中で、某ブランドの制作をされた会社の社長さんと専務さんに来社いただくことになったのですが、これは本当にうれしい出会いとなりました。

その会社は、設計事務所へ機能性やデザインを提案し受注するというシステムをとり、価格競争に振り回されない経営を心掛けておられ、世界の一流ブランドとお付き合いされ、よりよい仕事・オンリーワンの仕事を手掛けていらっしゃると思います。価格が安いのであれば多少出来が悪くてもよいという会社が多い中、非常に印象的でした。人との出会いを大切に、その出会いから仕事広がっていく経験を何度となくされていることもお聞きしました。また、人が喜ぶためにはどうしたらよいかを考え行動することが大切であることもお話されていました。

社長さんはこの会社の設立前に、お勤めだった会社で人間関係に悩み退職されたことがあるそうです。そのとき1冊の本に出会い心が洗われ、よし頑張ろうと元気を取り戻され、その後のいろいろな人との出会いから起業を決意されました。私もその本をいただいたのですが、そのはじめに書かれている文章を抜粋します。

何をするにも「必ずできる」と強い自信を持って行う人、反対に「困難だ、できるかな」と不安な気持ちで行う人。前者は勝者、後者は敗者。

この文章に対してこのようにも書かれています。

不確定な未来に関して憂い不安がることは人にありがちなことであります。しかし今、目の前の事柄に関して一生懸命に努力しやることで、それが毎日の積み重ねになればなんら不安はないはずであります。未来の不安定要素を危惧すること自体が無駄な労力なのです。

言うは易し行うは難しで、この本の通りにはなかなかいかないとは思いますが、前向きに頑張りたいと思います。

